

(別添4)

【多賀町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

1人1台端末及び高速大容量通信ネットワークを中心とする ICT 環境を活用することで、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実による、主体的で対話的で深い学びの実現を目指す。

特に、デジタルの優位性を生かすことで、児童生徒が学習の方法やツールなどを自分で選択し、多様な他者と協働しながら、学習者主体の学びを実現する。そして、すべての学習の基盤となる情報活用能力や、自己調整力の育成を目指す。

2. GIGA 第1期の総括

1人1台の GIGA 端末調達に合わせて、学校に高速大容量の通信ネットワークを整備したほか、以前から整備していた教室備え付き端末、プロジェクター・スクリーンを更新し、GIGA 端末が不足なく活用できる環境を整備した。また、授業支援ソフトウェア、AI デジタルドリルといった授業で活用するデジタルツールを導入し、ハード面だけでなく、ソフト面での環境整備を進めた。

その他には、各校に ICT 支援員を派遣し、授業準備支援やトラブル発生時の対応、児童生徒アカウント管理、年次更新作業など、教育委員会・学校現場だけでは対応が難しい案件のサポートを充実させた。今後も、ソフト・ハードともに同環境を維持するよう努める。

課題としては、各教員間で ICT 活用能力や授業設計能力に差があり、効果的な活用が進まないケースがあった。そのために、個別具体的な学習の実施において、児童生徒たちへ十分な支援が行き届かないことがあった。また、ネットワーク環境について、各校において同様のネットワーク環境を整備したが、一部学校においては同時接続時にネットワーク速度が低下することがあった。

今後は、ネットワークアセスメントを実施し、ネットワークに関する課題と改善策を見出し、児童生徒1人1人が不足なく端末活用できる、ネットワーク環境を整備する。

3. 1人1台端末の利活用方策

1. 及び2. を踏まえ、端末の利活用方策を記載する。

(1) 1人1台端末の積極的活用

1人1台端末の活用率について、学校間や学年間で差があるのが現状。授業中、休み時間中、ホームルーム中、家庭への持ち帰り中、色々な場面で端末活用できるため、場面を問わず、「1人1台端末を週3回以上活用する学校の率」の将来的な100%達成を目指す。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実

(1) の方策と併せて、端末を活用して自ら学びを進めることができるように、「児童生徒が自分で調べる場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校の率」の将来的な100%達成を目指す。

(3) 学びの保障について

授業支援ソフトウェアを活用した遠隔授業を実現し、「希望する不登校児童生徒へ端末を活用した授業への参加・視聴の機会を提供している学校の率」の将来的な100%達成を目指す。